

再エネとトリジェネレーションを導入したスマートアグリ事業



木質バイオマスボイラ



トリジェネレーションを導入したハウス



ハウス内で生産している高糖度ミニトマト

<概要>

- ・ 事業実施主体：株式会社 Jファーム（北海道苫小牧市）
- ・ 運転開始時期：平成26年8月

<エネルギー設備出力>

- ・ 天然ガスエンジン：電気 230kW、熱 350kW、CO₂ 140kg/h
- ・ 木質バイオマスボイラ：熱 300kW、CO₂ 150kg/h
- ・ 温泉熱ヒートポンプ：熱 263kW

<特徴>

- ・ トリジェネレーションを導入したスマートアグリ生産プラントを建設し、ハウス内でベビーリーフ（1ha、年間100t）、高糖度ミニトマト（1.5ha、年間150t）を水耕栽培。首都圏やシンガポール等への販路も確立し、贈答用の加工商品も製造・販売。
- ・ トリジェネレーションによって、ハウス及び加工施設で使用する電気、熱、CO₂の調達コストを削減。
- ・ 木質バイオマスボイラの燃料である木材チップは、地元の林業者と年間供給量、価格、品質基準等を定めた契約を交わし、安定供給を確保。間伐材の有効利用、冬季の雇用促進等によって地元林業に貢献。